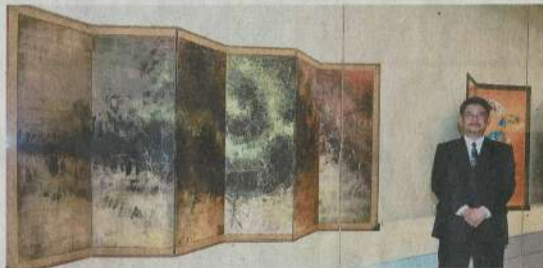


多彩な表現で圧倒

肥後の里山ギャラリー
中村・崇城大教授個展



屏風絵「20164142126」を前にする中村賢次さん
＝熊本市中央区

崇城大芸術学部長・教授で日本画家の中村賢次さん(57)の個展が25日、熊本市中央区練兵町の肥後の里山ギャラリーで始まった。近年の代表作から最新作まで18点を展示。人物画や花鳥画、抽象画など表現域の広さが見る者を圧倒する。4月11日まで。入場無料。

同ギャラリーが美術・工芸分野の第一線の県内作家を紹介する「熊本の現代作家展」の5回目。

中村さんは同市出身。金沢美術工芸

大大学院修了後、京都や奈良で重要文化財の保存修復事業に携わった。2000年の崇城大芸術学部創設に伴って帰郷し、後進育成に力を注ぎながら、精力的に制作を続ける。

新作7点のうち、屏風(びょうぶ)絵「20164142126」は熊本地震で街が崩れる様や、地中や空が混沌(こんとん)とするイメージをダイナミックに表現。「肥後六花図屏風」は緻密に描かれた花々がまだらに着色され、鑑賞者の想像力をかき立てる。

阿蘇の噴火を描いた3部作や、自身や家族を捉えた人物画なども並ぶ。

(魚住有佳)